

開 心  
静 聴  
充 満  
献 身  
奉 仕

日本クリスチャン・アシュラム連盟

春季号

# 日本アシュラム

Spring 1984

United Christian Ashrams of Japan

47

▼連盟は創始者の祈りによって各地に生れたファミリーの全国的な交わりであって、常に新しい家族(単位)の参加を期待している。

## 創始者スタンレー生誕百年記念

(3)

### 恩師ジョーンズ博士を偲んで

海 老 沢 宣 道

神は私の生涯に多くの良い先輩を備えて下さったが、半世紀を超える伝道生活に於て終始、師表と仰ぐ人として賀川豊彦とスタンレー・ジョーンズを挙げることを光栄とする。

京都の学生時代から、神戸のかけ出しの頃、上州富岡、朝鮮の釜山での開拓伝道、東京の江古田の創成期にも小さな教会に貴重な時間をさいて来援下さった賀川先生の御愛顧を忘れることはできない。その活動、その多くの著書を通して教えられ、導びかれたことは到底一言では述べ切れるものではない。

今一人のジョーンズ博士の高名は金井為一郎師の訳書により、五十年



ジョーンズ博士

前から知っていたが、戦後の日本を救うため、一、二年おきに十回も来日され、その都度、全国を巡回、数十個所で百数十回の伝道会を開き、十数万人に福音を説き、数千名の決心者を起し、また各地にアシュラムを開催して信徒の信仰を強化され、また訪問伝道者を養成され、わが教界に大きな貢献をされたことは感謝の言を知らないものである。

昭和三十年に第一回のアシュラムを天城山荘で指導された時から、個人的にも知遇を得、お交わりを許され多くの恵みを取次いで頂いた。最後の第十回全国伝道には、感謝の念から事務局長を引受け、それ以前になかった全教派の協力の下に、伝道会とアシュラムを各地に盛大に開催することができた。

この二人の師表は日米の代表的伝道者であると共に世界的な指導者であり、また互に主在る強い交わりを持ち、平和のために協力して祈りと運動を進められたことは衆知の通

りである。

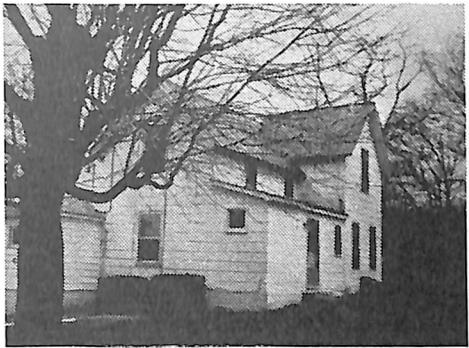
スタンレーは第十回の伝道を大きな喜びを以て終了、帰国されたが、オクラホマのアシュラム聖会中に脳卒中で倒れ、半身不随、言語障害を受けられた。然しその魂の信仰は不変の主イエスと益々強く結ばれ、一年余り米国一流の病院で治療を受けたが、全快の見込みが少くないことを知られると、『私はインドに帰り静かに主イエスのお取扱いを受けたい』と言われ、近親に守られて機上の人となった。途中エルサレムで開かれた第一回世界大会に車椅子で出席、開会説教をして、ヒマラヤ山中のサトタルに帰任され、祈りの生活に入られたが、間もなく容態悪化シクララ・スウェイン病院で一九七三年一月二五日帰天された。師はメリーランド州クラーキルの農家で、一八八四年一月三日に誕生されたので行年は八九歳。今年が生誕百年に当り世界各国で記念の集いが守られている。師は二三歳でアズベリー大学を出ると直ちにインド宣教の召命を受けて赴任、六十年余を献身、米国メソジスト教会の監督に二度も推選され乍ら辞退し、四六歳頃から毎年六ヶ月を全世界の伝道に捧げられた。またその頃ガンジーとの交際から暗示を受け、アシュラムを創始された。世界的伝道者は他にもあったが、師

編集人 海老沢宣道  
発行人 大石嗣郎  
定価 一部60円 千60円

の特色は、大衆の救霊と共に、信仰の強化から立証者の養成へと周到なプランを立てておられたことである。

もはや師のお話を直接聞くことはできないが、今日まで二九冊の名著を出版されているので、それらによって引続き指導を受けることは可能である。最後の『神の然り』は病中に口述され、人類への遺言として残されたもので、最近わが連盟から拙訳を出版したので、英語のいが手の方はぜひこれをお読み願いたい。私はこれを訳しつつ、改めて師の指導によって、与えられた主の恵みの数々を思い返して感謝している。

まず第一は牧師特有の高慢が砕かれ、自分を捨て、イエスを主と仰ぐ生活が守られるようになったこと、



スタンレーの生家

次には毎朝、必ず御言を静聴し、祈りを以て一日を始めることができること。

第三には一切を主に明け渡して、主の黙示に従うこと。

次には信仰や知識よりも霊肉全体を主によって聖化されること。

第五に時間も収入も能力も全てを

## ジョーンズ博士に学ぶ

測 江 淳 一

スタンレー・ジョーンズ博士を知ったのは、私の信仰の父ともいうべき金井為一郎先生を通じてであった。先生は印度の聖者サンダーシングを日本に紹介したのと同じく、印度へのパウロ的宣教を展開したスタンレー博士の名著「印度途上のキリスト」を翻訳出版した。同書はイエスが東洋の宗教思想、特にその霊的天才達の欣求待望していた救主であること、更に全世界の救主であり宇宙的な主であることを強調し、広くわたしたち日本の基督者をも啓発激励するところが多大であった。

この印度への使徒スタンレー博士は、最初はマハトマ・ガンジーと共に

主の御用に捧げ切ること。次には教会に欠けているコイノニヤの回復のため、アシュラム生活の運動に献身すること。第七には神の国の近づいたことを立証し、福音的カトリシズムこそ見えざる真の教会を待望する道であることを宣べ伝えたいと思う。

に日本に好意は持ちながらも、日本軍の中国侵略と暴虐を快く思っていないが、日米関係が緊迫するにしたがって、戦争を避けるために全力を尽くし、最後には極秘裏に日本大使館の意向を受け、ルーズベルト大統領を説得して天皇陛下に親電を送らせたことは多くの人の知るところである。彼は以前から賀川豊彦先生と相談して、その頃国際連盟の信託統治になっていたニューギニヤを日本人の開発殖民の場に提供するという条件のもとに、オーストリア及びオランダの内諾を取付け、ルーズベルト大統領に近衛首相との会談を進言し、泥沼戦争に入って困惑し

ていた日本陸軍を中国大陸から撤退させることを計画中に、陸軍がベトナム北部に進駐してこの計画は惜しくも流れてしまった。戦後マッカーサー司令官は彼の意向に従ってニューギニヤに日本の技術者の大調査団を派遣したことがあった。

しかしスタンレー博士は敗戦の惨苦と窮乏の極みにある日本を救うのは、金銭でも物資でもなく、それはキリストの福音であると、手弁当で来日し、隔年毎に全国を巡回伝道され十回に及んだ。特に「印度人には印度人のようになって伝道し、ある時期はマハトマ・ガンジーの独立運動を支援して英国政府から入印を禁ぜられたが、博士は「日本人には日本人のような」伝道方法がなければならぬが、それは仏教的基盤の日本に於ては博士が印度で始めた退修方式、クリスチャン・アシュラムが最適であると信じて来日毎に各地でアシュラムを開催し、この運動が長く日本に続き拡大することを念願して、最後には命をかけて来日しクリスチャン・アシュラム連盟の組織を確立して帰り、間もなく脳卒中で倒れた。彼が卒中の前歴を隠して日本中を強行巡回したのは日本に命を与えるためであり、また米国に於て危機を脱して印度に渡って天に召されたのは、愛する印度に骨を埋めるた

『イエスは主である』

（ロマ書十章九節）

アシュラムの五大原則  
（一）キリストへの明渡し  
（二）御言への静聴と立証

好評 三版  
スタンレー・ジョーンズ著

めであり、米國にて病の回復中に語った記録はまた、THE DIVINE YES、「神の然り」となって出版され、全世界への遺言状となった。

彼の説くイエスは文字通り「DIVINE」であり、使徒パウロと共に、「すべての聖徒と共に、その広さ、長さ、深さを理解することができ、また人知をはるかに越えたキリストの愛を知って、神に満ちているものすべてをもって、あなたがたが満たされるように、と祈る。」(エペソ

### ジョンズ師の生誕百年記念を迎えて

大石 嗣 郎

今年の一月三日は師の生誕百年記念に当り、誕生地であるワシントン・バルチモアの地を中心にして多彩の記念事業が行われた。しかも一九八四年という年全体を百年記念として賞えることになっている。

師と日本キリスト教界との関係は、戦後十回にわたるアシュラムによる日本伝道である。師と私との出遇いは訪日の最後から数えて三回程の交わりであったが、実に密度の濃いものであり、私をアシュラム運動に結びつけるきっかけになった。師が日本に来られる度毎の世話役が私の仕

三・一八一一九」との態度を以て貫ぬかれている。自伝中彼は、神国日本が敗れ天皇も神性を否定した結果日本人の失望落胆が激しいのを列車の中で見、信仰の対象を恢復して自信を取戻すには、「イエスは主である」という合言葉以外にない」と気付いたと言う。それ故「イエスは主なり」のアシュラムのスローガンは、特に全日本人のためでもあることを知り感謝にたえない。

事になった。その折に私を一番に悩ましたのは重いジュラルミンのストゥ・ケースである。何故あのような重い頑丈な職つても引込まないものを持つて廻るのか一度苦言したことがある。その答えはこうであった。ある時、印度を旅行して仮眠をしていたら粗末なカバンを鋭い刃物で切られ、もう少しで内容を盗まれる所で目が覚めたのはよかったが、盗人が見られるのを恐れて胡しようを眼にふりかけられた苦い経験をした。それ以来、そのような隙を与えないために頑丈なものに変えたと言うの

- (三) 聖霊の啓導と充滿
- (四) 神の国の体験と献身
- (五) 教会への奉仕と伝道

である。それにしても重いので、その内容を更に質した所、旅具の外に旅行中に読む書籍がびっちりつめこんであるとの答であった。別に疑ったわけではないが、一度その中のぞいて見るチャンスが与えられた。そして何よりも驚いたことはその中に汚れた粗末な皮製のサンダルがあったことである。そこで更に私は好奇心を持ってそのサンダルのことを聞いた。それを見た日本人は一人だけだと思ふ。師はそれを世界のどこを旅する時も身から離さずにかけて廻っていた。それは最後の死ぬ場所をインドであると心に定めていたからであった。果せるかな、最後はとも旅行する健康状態ではなかったが、かつがれるようにして印度に戻り、インドの病院でインド人の医師、看護婦の手あつい看護をうけ最後の息を引取られた。

現在サットルというアシュラム発祥地の丘に埋葬され静かに永遠の眠りにつかれた。先年アシュラム五十年祭に出席した折に親しく師の墓地を詣でる機会が与えられた。簡素な墓だがハスの花を形取った中に白い十字架が立てられているのを見て、師がいかにインドを愛し、インド人のために全生涯を献げられたかという印象をより深くさせられた次第である。

「アシュラムとは何か」  
(付) 一日アシュラムの守り方  
JUCA小冊子(価百円)

△靈交の歌▽  
主との交わり  
山根可弼

近づきて十字架の主を仰ぐ身に  
よみがえりもまた彼に近づく

主を思う時のとうとさ我知りて  
我はささげん 時のすべてを

主は我を今日も守りてわが子よと  
愛のかいなに抱きたもうなり

委ねたるこの身は我のものなら  
ず 主こそわが身の全てなり  
せば

好評  
スタンレー・ジョンズ博士の遺著  
**神の然り** B6判 220頁  
定価1200円 送料250円  
〈キリストに明け渡した人生〉  
海老沢宣道訳

日本を愛し、戦後十回の伝道をされ、帰米後卒中に倒れた病中に口述された万人への遺言。宇宙人生の真理を探索する者の必読書。

発行所 日本クリスチャン・アシュラム連盟

各地ニュース

◆予告の部

○城北アシュラム折禱会  
五月二十日(日)午後三時、新宿西教会、証し三井兄(更生) 奨励 渕江淳一師、次回は七月十五日予定。

○東京教職ミニ・アシュラム  
五月二十八日(月)二時、大宮前教会、静聴(新原) 恵み(清野) 祈り(満丸) の諸師分担の予定。

○関東アシュラム(第22回)  
十月八日(月)十日(水)二泊三日、奥多摩古里、福音の家にて、主題は『神の国に生きる』(ルカ伝七章二一節)、詳細は次号に。

○札幌アシュラム(第5回)  
十一月二、三日、真駒内青年センターにて講師酒井春雄師。

◆報告の部

▽城北アシュラム(第15回)  
既報の通り去二月十一日(土)朝九時半より夕五時まで、中野区野方町の天門教会で終日開かれた。開心(神山師)でヨエルの『心を切りさけ』との強い御言の迫りを受け、祈りの細胞は藤井、飯島、堀内、中村、井本の諸兄が座長を勤め、中食にはおいしいお弁当が用意され、ファミ

リーの交わりを深めることができた。静聴(有馬師)ではエペソ書二章から主の御声を聴き、恵みの時(島師)に主題『無くてならぬものは唯一つ』(ルカ十章四二節)の霊解を受けた。二回目の祈りの細胞で受霊の備えを整え、最後に充滿の時を海老沢師の指導の下に守り、主の御霊にみたまされた。参加者は昨年より多く十五教会から六六名で一同感謝に溢れ、献金の中から連盟と関東委員会とに各二万円を献納することができた。

▽教職ミニ・アシュラム

去三月十二日(月)二時より稲城教会(細川師)で植村、向山両師の助言により静聴の時を守る。出席七名。

▽城南アシュラム(第2回)  
去四月十五日(日)午前十時より目黒区碑文谷教会で久しぶり第二回目を開催、開心、福音の時(海老沢師) 主題「神は愛なり」の使信ありファミリアワー(中食) 静聴(大石師)はコリント第一の十三章により、恵みの時(瀨江師) 祈りの細胞は二分団で守り、各自のニードのために祈る。最後の充滿の時も海老沢師の助言の下、御霊の降臨を体験し感謝のうちに五時閉会。出席は六十名。終までの参加は約半数。

▽石神井アシュラム黙想会

去四月三十日(月)十時から練馬区石神井の清心幼稚園で、海老沢師

の助言の下に、初めてインドの瞑想方式を採り入れたアシュラムを守り参加者一同(七教会十五名) 大いに恵まれた。主題「全能の神を想う」により創世紀一、十一章を静聴し、瀨江師により恵みの取次ぎを受け、主の御霊に満されて感謝、年内に再開を希望する声が強かった。

▽関東アシュラム折禱会  
去る一月三十一日(火)から隔月に二月二十七日(火)五月二十二日(火)何れも新宿西教会(有馬師)で、委員会の前に守り、秋の準備をする。

会員消息

中路 嶋雄師、一月以来入院療養中  
村上 東師、昨夏より入院療養中  
室内歩行が可能となられた。

岡田 実師、四月より腸手術で入院  
経過良好、五月中旬退院された。

山根 可弑師、去一月夫人召天后も  
主に支えられて御健在。

瀨江 淳一師、半年間の米国学留学から三月末帰国、早速各地アシュラムの奉仕に当らる。

大石 嗣郎師、昨年はソ連教会との平和会議に、去二月にはフィリピンセブ島の小村リロアンへ旧戦友を引卒して親善訪問、共に礼拝を守り、村民との主に在る交わりを回復された。

◎総務局より

前号以降も連盟の活動を支持して各方面から賛助金を贈られ、感謝。  
▽献金 報告(46号以降)

関東アシュラム	五万円
城北アシュラム	二万円
四国アシュラム	一万円
齊藤 かおり姉	一万円
大石 嗣郎兄	一万円
松坂 静江姉	五千円
小計	一〇五、〇〇〇円

最新刊

サトタル・アシュラム指導者  
D・P・タイタス著  
「御国を来らせ給え」  
— 神の国に就ての研究 —  
A 6判40頁定価二百円七〇円  
スタンレーの後継者による主イエスの宣教主題の明解書

好評・残部僅少

海老沢宣道著  
「アシュラムの原則と実際」  
新書判52頁  
価三百円七〇円  
スタンレー博士に親しく指導を受けた著者がアシュラムの五大原則と守り方を平易に解説。

▽アシュラムとは故スタンレー・シモンズ博士がインドの退修方式を取り入れて創始されたキリスト教の新しい祈禱生活運動である。

東京都目黒区中央町1-21-10  
碑文谷教会気付  
日本クリスチャン・アシュラム連盟